

CONTENTS

会社概要／編集方針……………1
 ごあいさつ……………2



暮らしをもっと楽しく、もっと安全・快適に。社会のいたるところで「マクセル」ブランドが活躍しています。……………3

-  世界初! iVDRスロット搭載のフルレイトディスクレコーダー……………3
-  「大人かわいい」女性向けモバイル充電器……………3
-  光触媒コーティングの内刃を持つ電動シェーバー……………4
-  高容量角形リチウムイオン電池……………5
-  コイン形リチウム二次電池「CLB」……………5
-  容量6.25TBの「Ultrium6データカートリッジ」……………5
-  車載カメラ151レンズ MC151……………5
-  FeliCa検定認定の信頼性カード……………5
-  熱伝導性の高いアルミ両面粘着テープ……………5

CSR活動報告……………6
 CSRマネジメント……………6
 社会報告……………7
 ●お客様とともに
 ●お取引先とともに
 ●地域・社会とともに
 ●従業員とともに
 環境報告……………9
 ●環境マインド&グローバル環境経営
 ●2012年度の環境行動目標と実績
 ●次世代製品とサービスの提供
 ●環境コミュニケーション
 ●環境に高いレベルで配慮した工場とオフィス

会社概要

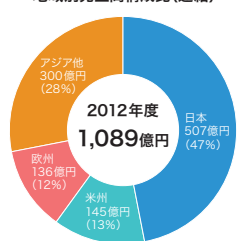
日立マクセル株式会社

本 社: 〒102-8521 東京都千代田区飯田橋二丁目18-2
 設 立: 1960年9月 資本金: 122億300万円(2013年3月末現在)
 連結売上高: 1,089億円(2012年度) 連結従業員数: 3,780名(2013年3月末現在)
 2012年4月1日から2012年12月31日までは、旧日立マクセルエナジー株式会社の上高を含みます。

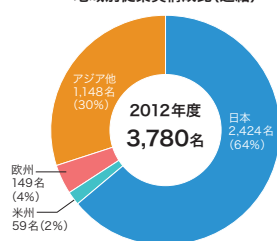
事業内容:

エネルギー: 民生用リチウムイオン電池/産業用リチウムイオン電池/コイン形リチウム二次電池(CLB)/ボタン電池/リチウム一次電池/蓄電デバイス
産業用部材: 機能性材料/電鍍・精密部品/光学部品/金型・合成樹脂成形品/粘着テープ/コンピュータテープ/放送用ビデオテープ/RFIDシステム/ICカード
電器・コンシューマー: 小型電気機器/ヘルスケア/音響機器/ハードディスク/光ディスク/充電機器/アクセサリ/乾電池/オーディオ・ビデオテープ

地域別売上高構成比(連結)



地域別従業員構成比(連結)



日立コンシューマエレクトロニクスから液晶プロジェクター事業の移管を受け、光学事業をさらに強化

日立マクセルは2013年7月、日立コンシューマエレクトロニクスの液晶プロジェクター事業の移管を受け、光学事業をさらに強化します。

日立コンシューマエレクトロニクスの液晶プロジェクター事業は、これまで培ってきた映像・光学・伝送技術をコアにした高度なエレクトロニクス技術により、教育・企業向けを中心に世界の市場で幅広い販売実績を有しています。今回の事業移管では、これを、日立マクセルのスマートフォンやデジタル一眼カメラ、自動車向けの小型カメラレンズ・ユニットなどの既存の光学事業と統合します。これによって、技術面・販路面での相乗効果を生み出し、グローバル成長戦略を加速する契機とします。また、本事業のさらなる強化と高収益化を進めるとともに、新たな事業分野における製品・サービスの創出を図ります。

編集方針

本報告書は、マクセルグループのCSR^{*1}活動をステークホルダーの皆様にお伝えすることを目的に発行しています。
 各ステークホルダーとの対話部門の責任者からなるCSR報告書編集委員会を設け、「ステークホルダーの皆様や社会が重視していること」と、「マクセルグループが重視していること」という2つの視点で報告項目を検討し、重要性の高い情報をわかりやすくお伝えできるようコンパクトにまとめました。また、昨年同様に特集記事では社員のコメントを掲載するなどして親しみやすい報告書になるように努めました。
 なお、本報告書に掲載できなかった環境面の詳細情報などについてはウェブサイトで開示します。

報告対象範囲

日立マクセル(株)およびグループ会社11社(報告範囲が異なる場合は、項目ごとに記載)。日立マクセル(株)/Hitachi Maxell Global Ltd./Maxell Corporation of America/Maxell Europe Ltd./Maxell Asia (Singapore) Pte. Ltd./Maxell (Shenzhen) Trading Co., Ltd./マクセル(上海)貿易有限公司/台湾マクセル有限公司/Maxell Tohshin (Malaysia) Sdn. Bhd./Maxell Finetech (Thailand) Co., Ltd./PT. SLIONTEC EKADHARMA INDONESIA/無錫日立マクセル有限公司

参考にしたガイドライン等

環境省「環境報告ガイドライン(2012年版)」
 環境配慮促進法、環境省「環境報告書の記載事項等の手引き(第2版)(平成19年11月)」
 GRI「サステナビリティリポートガイドライン2006」^{#2}
 (財)日本規格協会「ISO26000:2010」

発行 2013年6月

関連ウェブサイト
<http://www.maxell.co.jp/>

報告対象期間

2012年度(2012年4月から2013年3月)を中心に報告していますが、一部に2013年度の事象も含んでいます。

ごあいさつ

新体制のもと、「ONEマクセル」としてグローバル市場でさらなる高みを目指します。



日立マクセルは2013年1月1日、日立マクセルエナジーと経営統合し、新しいスタートを切りました。この統合は、新興国を中心に海外事業の規模拡大を図るとともに、変化の激しいグローバル市場において競争力をさらに強化するためには、製販一体となり、技術・人材・設備・販売網などシナジーを最大化していくことが必要と判断したからです。

経営統合を受けて、新たに今期を初年度とする3カ年の中期計画をスタートさせました。この中期計画では、「グローバル競争体制の確立」「ユニーク技術での差別化」「ブランドビジネスの展開加速」「ソリューションビジネスの展開」「強靱な経営体質の確立」の5つの方針を掲げています。

「グローバル競争体制の確立」については、海外事業におけるマーケティング、コンシューマー商品開発、調達などの事業統合機能を、2013年1月1日にマクセルアジア(香港)から社名変更した日立マクセルグローバルに集約することで、体制を強化しました。「ユニーク技術での差別化」では、機能性部材、光学

部材、超精密加工技術「エレクトロ・ファイン・フォーミング技術(EF²)」、情報セキュリティなどの独自の製品や技術で新規顧客、新規チャネルの開発を積極化するとともに、「ブランドビジネスの展開加速」でも事業展開地域の情報を取り込み、新興国の販売強化と先進国での販売体制の再構築を図っていきます。「ソリューションビジネスの展開」については、光学・レンズを代表とするユニーク技術などを軸にした創出などに加え、海外事業会社による独自事業の強化でビジネスの立体化を急ぎます。

最後の「強靱な経営体質の確立」では、2012年10月の組織改正で、各事業本部にまたがる業務管理本部を設けました。同本部では、間接業務の改善と効率の向上をミッションとして、定型業務の無駄の排除と業務プロセスの改善に取り組んでいます。

こうした取り組みを推進する上で不可欠なのは「人材」です。日立マクセルでは、組織力強化と事業競争力の向上を目指して「FUNs」活動に取り組んでいます。「FUNs」とは当社が行動指針に掲げる「フットワーク」「ユニーク」「ニッチトップ」「スピード」の頭文字を取ったもので、「知恵を出す社員」「自定できる社員」「活発、前向きな社員」の育成を推進しています。

最後になりましたが、企業活動の根幹となるのがコンプライアンスと安全衛生です。全ての行動において「基本と正道」と「安全第一」の意識を持つことを、あらためてグループ全体で徹底してまいります。

今後も全員が力を合わせ、創業より堅持する「パーソナルとモバイル」の事業領域で培った50年に及ぶ経験・ノウハウ、コアとなるプロセス技術や部材を活かし、生活に潤いや快適さ(スマートライフ)を提供することで社会に貢献していきます。そして、全てのステークホルダーから信頼され、期待される企業を目指してまいります。

2013年6月

日立マクセル株式会社
 代表取締役 取締役社長 千歳喜弘

